

皇太子殿下御参拝



平成ノ大造営

時満ちて
道ひらく

8月祭事暦

- 1・15日 月次祭
午前10時～
高宮祭
第二宮・第三宮祭
宗像護国神社祭(1日)
午前11時～
総社祭
浦安舞奉奏(1日)
豊栄舞奉奏(15日)
- 7日 午後8時～
中津宮七夕祭
於=大島・中津宮
- 15日 午後7時～
宗像護国神社
千灯明祭
於=宗像護国神社
- 30日 午後8時～
仮殿遷座祭

皇太子殿下の 行啓を仰ぎ奉りて

宗像大社 宮司 高向 正秀

皇太子殿下には、七月四日当大社を御参拝され、神宝館を御視察いただきました。昭和五十八年五月十五日、天皇皇后両陛下が皇太子時代に御揃いで行啓されてより、ちょうど三十年振りの慶事でした。

宗像大社鎮座の根幹は、皇祖天照大神より賜りました「天孫を助け奉り 天孫に祭かれよ」の神勅に従って、皇室守護、国家鎮護の神として宗像の地に鎮まりました。以来、皇室とは格別に関係深く、勅使の御参向をはじめ各時代を通じて篤い崇敬を受けて参りました。皇太子殿下には、御案内中、沖津宮奉務のため沖ノ島へ渡島奉仕する神職を労りいただき御言葉も賜りました。宗像大社のごことをよく御存知いただき、只恐縮するばかりでございましたが、改めて「祈る」という神職としての責務を痛感致した次第です。

七月八日には御礼の御挨拶に東宮へ参内しましたところ、加地東宮侍従長を通じ「充実した時間を過ごすことができました」との御言葉を賜りました。今月末には御本殿の仮殿遷座祭を控え、「平成の大造営」も本格的に動き出します。この慶事が、神郡宗像の民に果たした役割の大きさを痛感するとともに、皇室のありがたさが沁みわたりました。

皇太子殿下下行啓記

皇太子殿下には、七月四日午後三時当大社を御参拝され、神宝館を御視察、儀式殿内の便殿にて御休息後、「宗像大社文書」を閲覧され、同四時十九分に次の行啓先である宗像市郷土文化学習交流館(海の道「むなかた館」)に御出発されました。

臨時大祭齋行

前日午後一時、皇太子殿下御参拝にあたり、橋雅人東宮職係長より当社勅使館において幣帛料、神饌料の伝達を受け、全神職は、翌日の臨時大祭の為に参籠。翌四日午前九時、宮司以下祭員が幣帛料、神饌料を神前にお供え申し上げ、「皇太子殿下下行啓臨時大祭」を齋行致しました。

御着

行啓当日は、午後一時に神門を一時閉鎖、同二時には祈願殿と第一駐車場を除く境内全域の一般立ち入りを禁止。神域内に関係者以外にないことを確認した後、再度、神門を開扉、午後二時三〇分、各待機場所より、全ての奉送迎者が御着場所の神門前に移動し、一同緊張した面持ちで整列、皇太子殿下の御到着をお待ち申し上げました。



午前9時 臨時大祭



皇太子殿下下行啓時

臨時大祭 式次第

御参拝 前儀 午前九時

時刻前 宮司以下祭員齋館前庭に列立、祓舎に参進する

先 宮司以下祭員祓舎所定の位置に著く

次 修祓の儀

次 宮司以下祭員神門より参入拝殿所定の座に著く

次 宮司一拝 祭員是に倣う

次 神饌・幣帛料を供す

次 宮司祝詞を奏す 一同平伏

次 宮司以下祭員退下

皇太子殿下御拝の儀 午後二時五十九分御着

定刻 神門前御着

次 御参進

次 御手水の儀

次 御修祓の儀

次 殿下御拝座に著かせらる

次 皇太子殿下御拝礼

次 御退下

御参拝 後儀 殿下御移動御

皇太子殿下、神宝館に進まれられたる後、祭場を舗設

宮司(代理)以下祭員、拝殿所定の座に著く

次 宮司(代理)玉串を奉りて拝礼 祭員列拝

次 神饌を撤す

次 宮司(代理)一拝 祭員是に倣う

次 宮司(代理)以下祭員退下



御参拝
定刻の午後二時五十九分、皇太子旗を掲げたお召車がゆっくりと手水舎前に御到着遊ば

されました。雨足が弱まる中、皇太子殿下には、傘をお召しになられ、葦津権宮司の先導により、責任役員の出光昭介名誉会長にお声掛けされた後、奉迎者らに御会釈を賜りました。その後、神門前で高向宮司が「本日のお出まし誠に光栄に存じます。」とお出迎え申し上げた後、宮司の先導により本殿へ進まれました。

皇太子殿下は、拜殿下におかれて加地正人東宮侍従長とともに手水の儀及び修祓を受けられ、白反の敷かれた拜殿をお進みになり、御拝座へ御立

ちになると親しく御拝礼遊ばされました。その後、殿下には高向宮司の先導により神宝館に向かわれました。途中、昭和五十年宮中歌会始で三笠宮殿下がお詠みになられた歌碑の前で立ち止まられ宮司より御説明を申し上げます。

神宝館及び便殿
神宝館では、時間の関係上、収蔵品の中心をなす沖ノ島神宝を御覧いただきました。沖ノ島に関する展示では、出土神宝に大変興味をお示しになり、宮司の説明を熱心にお聞きいただきました。神宝館御視察後は、昭和五十八年、天皇皇后両陛下も御使用になられた儀式殿内の便殿で御休息いただきましたが、早々に終えられ、宗像大社文書をご覧になりました。



殿下の御研究は交通史、流通史であり、特に御専門に関係する文書に深い御関心を寄せられ、予定を約五分超えての長きにわたって御覧いただきました。



御発
午後四時十九分、儀式殿前

御着前
行啓前日は時折強風雷雨となり御参拝時の天候を案じておりましたが、朝の祭典時には小康状態となり安堵したところ、昼過ぎに再び降雨となりました。御着の時刻は一刻と近づいており、急ピッチで境内域の排水作業を行いながら、まず午後一時に神門内の一一般の立ち入りが、警備の関係で禁じられました。

同刻には奉送迎者の受付が、勅使館と清明殿で開始され、傘を差しながら多くの方々が

皇族ご参拝の御礼

久邇宮邦彦王殿下・同侁子妃殿下

久邇宮良子女王殿下(皇淳皇后)・同信子女王殿下

秩父宮雍仁親王殿下

伏見宮博義親王殿下

閑院宮春仁親王殿下

朝香宮鳩彦親王殿下

東久邇宮稔彦親王殿下

清宮貴子内親王殿下

三笠宮崇仁親王殿下

昭和44年10月10・11日

三笠宮崇仁親王殿下・同百合子妃殿下

皇太子殿下・同妃殿下(現・今上陛下、皇后陛下)

礼宮文仁親王殿下(現・秋篠宮文仁親王殿下)

彬子女王殿下

皇太子殿下

大正	12年	5月14日	辺津宮
大正	14年	2月19日	辺津宮
昭和	4年	5月27日	辺津宮
昭和	4年	10月21日	辺津宮
昭和	6年	11月10日	辺津宮
昭和	12年	6月6日	辺津宮
昭和	32年	4月9日	辺津宮
			辺津宮・中津宮・沖津宮
昭和	50年	10月25日	辺津宮
昭和	58年	5月15日	辺津宮
昭和	61年	7月19日	辺津宮
平成	25年	3月15日	辺津宮
平成	25年	7月4日	辺津宮

田元一東宮侍従らが来社され現地を御視察いただき、同二十八日には葦津権宮司、杉山禰宜が上京、東宮侍従らと行啓の儀註、境内の御案内、奉送迎者の誘導整理等について御教示を賜り、最終的な奉迎計画書が作成されました。

高向宮司以下職員が一丸となり、祭物用具奉製、殿内諸調度奉製、儀式殿及び庭園の手入れ、御湯茶接待用品の調達、神宝館の展示企画、警衛、報道対策をはじめ着々と準備が進行し、六月の責任役員会では御参拝の諸準備に対する報告が行われました。

行啓三週間前の六月中旬には報道規制も解除され、多くの皆様が周知するところとなり、釣川の規模な清掃や福岡県警による当日の警備体制の演習が行われるなど、宗像市内は奉迎ムードに包まれての行啓となりました。



昭和44年 三笠宮崇仁親王殿下



昭和61年 礼宮文仁親王殿下(現 秋篠宮文仁親王殿下)



昭和58年 皇太子同妃両殿下(現 天皇皇后両陛下)

次の100年、
人間には
何ができるのか。

出光



暑中御見舞い申し上げます

時満ちて道ひらく 造営日記 仮殿地鎮祭 〳愈々、大造営始まる〳

昭和四十六年に「昭和の大造営」が完了してより、四十年余りの歳月が経過し、本殿及び拝殿をはじめとする各諸施設に傷みが見受けられるようになった為、本年度より「平成ノ大造営」と称し、三宮の大規模な再整備事業を行う事となった。

それに先立ち、修復工事中の神様の仮のお住まいである「仮殿」を設けなければならぬ。七月五日、午前十時より辺津宮本殿横の建設地において



殿遷座祭が行われ、御祭神に仮殿へお遷り頂く予定である。本殿拝殿修復工事の終了は、来年の十二月頃が予定されており御祭神にはその間、仮殿にお鎮まり頂く。

宮司ほか設計・施工業者参列のもと仮殿地鎮祭が斎行された。引き渡し予定日は、八月二十五日である。その後、八月三十日午後八時より仮



第一回 氏子会評議員会開催

六月二十一日、本年度第一回目の氏子会評議員会が置舘会長以下七十三名出席のもと当大社清明殿にて開催された。

当日、本殿にて正式参拝の後、清明殿へと移動。沖西副会長の開会の辞より總會開催となり、神宮並皇居遙拝、国歌斉唱、敬神生活の綱領を一同唱和し、会長・宮司挨拶を賜り議事へと入った。

議事では七月三十一日の大祓式並夏越祭について、事務局より意義説明があり、旧宗像郡内に配布する、人形・献米袋の取り纏めのご理解ご協力の依頼がなされた。また、平成ノ大造営の件、皇太子殿下行啓に関する件についても報告審議がなされ、会議は幕を閉じた。

会議終了後には、各評議員に担当地区の人形・献米袋をお持ち帰り頂き、配布・取り纏め作業にご尽力頂いた。

皇太子殿下行啓に伴う奉送迎・人形配布作業等にお力添えを頂いた皆様には、紙面を以ちまして御礼のご挨拶申し上げます。



IDEX

提案から、設計、施工、メンテナンスまで
住宅用・産業用太陽光発電はIDEX



屋根には、
資源が降り注いでいる。



御社には、
屋根という資産がある。

株式会社 新出光  0120-89-9933 IDEX太陽光 検索

受付 9:00~18:00 (土日祝日もOK) <http://www.eco-idex.com/>

暑中御見舞い申し上げます

巫女・神楽舞講習会

七月十一・十二日の三日間、神社音楽協会より磯部恵子先生をお迎えし、神楽舞をご指導いただき、平素見落としがちなお癖をはじめ諸々ご指摘いただいた。

巫女職は現在十五名、神社の社務が落ち着くこの時期に例年神楽舞の講習を実施し研鑽に努めている。期間中は社頭状況をみながら交代で参加し、温習終了後も夜十時過ぎまで自主練習を行い巫女たちは正しい神楽舞を身につけようと懸命に取り組んでいた。

磯部先生には指先、足先まで神経を集中させること、大神さまへ気持ちの入った舞を御奉仕するように等、基本的姿勢から熱心な指導を頂き、巫女達もそれに応えるように真剣な表情で受講した。

本年は恒例祭等で奉奏する「浦安舞」・「豊栄舞」の習得だけでは無く、



清明殿での温習



今後温習を重ね、来年度の講習会では更に成長した姿をご覧頂くため、更なる研鑽に励みたい。

例年秋の大祭最終日の高宮神奈備祭で奉奏する「悠久舞」もご指導頂き、温習最終日には、神前にて、「浦安舞」・「悠久舞」を奉奏し、講習会を取り収めた。

磯部先生は神社音楽協会講師として、住吉神社(福岡)等で神楽舞のご指導をされながら、神職としても櫻川磯部稲村神社(茨城県櫻川市)で御奉仕されている。



宗像市海開き

神郡宗像に夏の到来を告げる海開き神事が、六月二十五日午前九時三十分宗像観光協会、玄海ホテル旅館組合・神湊飲食店組合の主催により執り行われた。

当日は晴天に恵まれる中、神職が宗像市神湊海岸の砂浜に祭壇を設け、各団体の関係者が参列し、今シーズンの海と人の安全、宗像地域の賑わいを祈念して祭典は行われた。

祭典終了後、神職は深浜海岸、五月松原、江口浜、勝浦海岸など、宗像市内の海水浴場へ向かい祓い清めた。

玄海国定公園に属する景観地である宗像の海水浴場には、夏休みに入るると多くの家族連れが訪れる。海の幸を提供する店が数多く並び大いに賑う。ルールとマナーを守って楽しい夏の思い出を作りたい。



駅長たび自慢

大分、いいね!

あなたは、どの大分が「いいね」?

2013.7/20-9/30



おんせん県手形 新登場!!

特産品が当たるスタンプラリー開催!

対象施設で使える提示特典が満載!

詳しくは専用のホームページをご覧ください

大分、いいね! 検索

www.oitaiine.com

暑中御見舞い申し上げます

中津宮祇園祭

去る七月十五日、午後二時より中津宮の末社・須賀神社において祇園祭が斎行された。そしてこの神賑行事として大島地区山笠保存会役員を始め中津宮の氏子総出で山笠が奉納された。

当日は薄雲が掛かるものの概ね晴れ猛暑の中の祇園祭であったが、祭典が近づくにつれ法被姿の島民が続々と須賀神社に参集、大島地区山笠保存会会長(宮本俊久氏)以下関係者が玉串を捧げ祭典は滞り無く納められた。



祭典後には大島小学校児童により「磯つ子太鼓」が奉納されると、それを合図に島の子供から大人まで島を上げて山笠が引かれ、大小四台の山笠が勇壮に島内を疾走、沿道では各家々から力水を掛けられ、更に勢いを得て山笠は勇み進む、子供たちも喜び大声で掛け声をかけながら駆け回った。



恒例の行程を巡りし終えた山笠は午後四時頃にはこども広場に納められると、一同で祝い唄を一同で歌い上げ、またこの度、筑前大会に進んだ大島中学校女子バレーボール部の壮行



この神事は伊勢神宮に初穂(新穀米)を奉獻すべく行われており、今から爽やかな秋が楽しみである。

六月二十三日(日)午後二時、宮地嶽神社神田において福岡県氏子青年協議会神宮新穀献供米お田植え神事が斎行され、当大社より氏子青年会嶺俊光会長をはじめ五名の会員が出向奉仕した。当日、時折雨の降る天候であったが、斎田脇に祭壇を組み、神田、早苗を御祓いた後、各神社氏子青年会並びに子供たち総勢二十五名にて御田植神事が行われた。午前中に他で田植えをされた方もおられ、慣れた手付きで進み滞りなく植え終え、神事終了後は、直会にて懇親を深めた。



福岡県氏子青年協議会事業 神宮新穀献供米 お田植え神事

当大社氏子青年会も参加

私たちは生活者の立場で考え、顧客の立場で行動します。

私たちはユーザーの気持ちを的確に捉え、企業戦略から空間、個々の商品、サービスに至るトータルなステージで「デザイン」の力を発揮し顧客の企業価値の創造のお手伝いします。



株式会社ジーエータップ
http://www.ga-tap.co.jp

福岡事務所 福岡市博多区綱場町2-2 福岡第一ビル1F 〒812-0024 Tel 092-291-8801 Fax 092-291-8805
東京事務所 東京都文京区白山5-2-5 CSAビル4F 〒112-0001 Tel 03-3868-3481 Fax 03-3868-3482

暑中御見舞い申し上げます

宗像市 新市制10周年記念

宗像の山笠が宗像大社に集合

田熊・鐘崎・大島・地島、市内四地域の山笠が七月十七〜二十一日迄、当大社に隣接する海の道むなかた館前に展示され、二十日(土)には市内の山笠を代表して、田熊山笠が大人から子供まで約二二〇名の参加者により山を昇き、当大社の第一駐車を神幸した。

社一で昇き山をしたいたの音が多くあがり、当大社第一駐車で山が昇られることとなった。二十日、ジリジリと太陽が照りつける午後一時、海の道むなかた館前に当大社神職が出向、田熊山笠をお祓いすると、実行委員長の西山氏、谷井市長、久芳教育長が台上がりをつとめ、「オイサオイサ」と昇き手に声をかけながら、前走りの子ども五十人、昇き手七十人が当大社の駐車を一周すると、市内外から訪れた観客からも大きな歓声が上が



り、最後は鐘崎の三本締めで昇き山は終了した。期間中は夜間のライトアップや野外特設ステージなどでも様々なイベントが行われ、大いに賑わい盛大の内に幕を閉じた。

沖ノ島を描いた

ナンバープレート交付

宗像市が「宗像・沖ノ島と関連遺産群」の世界遺産登録を目指して作成した、原動機付自転車オリジナルナンバープレートが七月一日に交付され、プレートをデザインした北野公一氏(和歌山県在住)と市役所職員が報告のため、デザインモチーフとなった当大社を参拝した。

プレートには沖ノ島と、当大社の屋根が描かれており、デザインは全国から寄せられた応募作一二三点的のなかから市民投票を経て選ばれた。

宗像農業協

同組合と宗像郵便局は、配達業務などでバイクを利用しており、地域貢献のため所有するバイク計約一三〇台に、このオリジナルナンバープレートを取り付け、業務にあたりているという。



九州産の小麦を使用したサブレです。



御菓子處 石村萬盛堂
〒812-0028 福岡市博多区須崎2-1
TEL 092-962-5000

宗像大社御神菓調製



暑中御見舞い申し上げます

九州式内社顕彰会 『屋久島・種子島』巡拝記

当大社が事務局を務める九州式内社顕彰会は、七月十一日より十三日にかけて屋久島・種子島の古社を巡拝した。折しも台風七号が沖縄付近に接近し、巡拝会開催も危ぶまれたが三日間晴天に恵まれた。

十一日、参加者十九名は鹿児島本港より高速船に乗り、一路屋久島へ向かった。到着



益救神社

後、早速、全国に鎮座する式内社の中で最南端に位置し、南島地方唯一の式内社・益救(やく)神社(御祭神・天津高彦火火出見命ほか/宮司・大牟田信文氏)を参拝した。屋久島の神社は、山を信仰の対象としたものが多く、古くは「岳参り」とも称された。この益救神社も奥宮は宮之浦岳(一九三六が九州最高峰)である。その日の宿は、安房にある屋久島山荘で、小説家・林芙美子が長編小説「浮雲」を執筆した所でもある。夕食には、トビウオや旭力など地元で採れた海産物に舌鼓を打った。

翌日、午前中は、樹齢三〇〇〇年といわれる「紀元杉」を始め世界遺産にも登録された屋久島の森を散策した。本土では大木といわれるような木が無数に存在し、森の深さに圧倒された。山自

体を「カミ」と崇める「岳参り」信仰が生まれた背景を充分に感じると共に当大社の「沖ノ島」との共通性を感じた。年間降水量は、一〇〇〇〇ミリに達するともいわれ、川の水量は豊富で又勢いがある為、川魚はあまり住んでいないようである。その後、永田嶽神社(御祭神・天津高彦火火出見命/宮司・大牟田信文氏)に参拝。こちらも永田岳という山を信仰の対象としている。仰ぎ見る山容は荒々しい。屋久島の山は女性的なものから男性的なものまで山容のバリエーションは豊富である。その日のうちに屋久島を後にし、高速船で種子島へ向かった。

十三日、鉄砲伝来の地を訪れた。鉄砲がポルトガル船によってもたらされ種子島で国産される過程で、島には鉄砲作りに挑んだ刀職人と娘の哀しい話も伝わっている。次に、稲作発祥の地ともいわれ、原種ともいわれる赤米を神田で作っている宝満神社(御祭神・玉依姫命/宮司・松原堅二



トビウオ



旭力

氏)を参拝。周辺では大規模に稲作がされ、美しい水田が広がっていた。当地の田植えは三月に行い、七月中には稲刈がされる。その後、世界で二十数カ所あるロケット打上げ基地の中で最も美しいといわれる種子島宇宙センターを見学。背景に海が広がるその立地は大変美しかった。同センターには打ち上げられなかったH-2ロケットも展示されていた。

夕刻、種子島より高速船に乗り帰途に着いた。



H-2ロケット



種子島宇宙センター



宝満神社



永田岳

(続)
浜の寄物

280

いしただし



福津市在自の金刀比羅神社には江戸時代から昭和時代まで、約八十面の絵馬が奉納されている。はじめて神社を訪れたのは四十数年前でその豊富さに驚嘆した。

その後、幾度か訪れたが、この絵馬群が全国的に知られるようになり、盗難を受けたりしたため、諏訪神社の故大隅光信宮司の努力で絵馬館が出来、現在は保存管理がされている。

この金刀比羅神社には日清日露関係の絵馬もある。日露戦争の日本海海戦は、世界海戦史上類を見ない大勝利であった。日露戦争では陸上戦でも勝利をおさめた。この戦争の勝利で日本の国際的な地位も向上した。

絵馬は明治三十九年(一九〇六)に奉納された「大日本帝国軍艦敷島(しきじま)号」をとりあげてみよう。絵馬は縦四十二cm×横五十二cm。敷島は六六艦隊といわれ戦艦六の一つで、装



金刀比羅神社の「敷島」の絵馬

甲巡洋艦は六である。イギリスが主で、ドイツ、フランスで建造された。全長一三三、五m、全幅二三、m、排水量一五、〇八八トン、最大速力十八ノット、兵装は四十口径三十cm、連装砲二基四門、四十口径十五、二cm単装砲十四基十四門をはじめ各種の砲を備えた。また四十五cm魚雷発射管五門をもっていた。乗員八三六六名、敷島型戦艦では初瀬、敷島は三本煙突、朝日と三笠は二本煙突であった。

明治三十三年(一九〇〇)一月二十六日、イギリスで竣工し呉に回航して、常備艦隊に編入されている。明治三十七年(一九〇四)二月の連

合艦隊編成にともない第一艦隊第一戦隊に編入された。戦歴は旅順港閉塞作戦、黄海海戦、日本海海戦に参加した。同型艦である初瀬は三十七年五月の旅順閉塞作戦中にロシアの敷設した機雷にふれて沈没。

明治三十八年九月十一日に戦艦三笠は後部火薬庫で爆発事故を起し、敷島が一時的に連合艦隊旗艦となった。凱旋観艦式にも参加している。

その後大正九年(一九二〇)のシベリア出兵、翌大正十年(一九二二)九月一日、三笠とともに一等海防艦に転籍されている。

日露戦争の最新艦も日本海軍の造船技術向上し、世界レベルを凌ぐほどになり旧式艦となった。大正十二年(一九二三)にはワシントン軍縮条約の締結を受けて、敷島はすべての兵装および装甲が撤去されて特務練習艦となった。

以後佐世保海兵団に編入され佐世保湾内に繋留された。

太平洋戦争が終わり昭和二十年(一九四五)十一月二十日に除籍され、昭和二十三年(一九四八)四月佐世保船舶工業(旧佐世保海軍工廠)で解体された。明治・



敷島

大正・昭和を生き抜いた艦はここで終わった。(秋山真之と日本海海戦・双葉社)
「バルチック艦隊の潰滅(原書房)を書いたノヒコア・プリポイは日本艦隊を目にして驚嘆した。「日本艦隊の陣形のきちんとしているのにはまったく驚嘆しないではおられなかった。全艦隊がまるで大きな一つの機械のように、命令のままに動いているようだった。十五、六ノット以上の速力は出ていなかっただろうが、この軍艦の二団が多くの煙突から煙を吐きながら、恐るべき快速力で海に駆け廻っているような印象を受けた」既にバルチック艦隊は戦う前に負けていたといえよう。

戦い終わった時、「敵は二十七隻からなる艦隊をもっていいよ、われわれをとり巻いていた。この中には昨夜わが艦隊と渡りあつた敵の主力十二隻からなる戦艦、装甲巡洋艦も混じっていた。この十二隻はほかの軍艦に劣らず威風堂々として、われわれを震えあがらせた。よく見たがマスト一本失ってはず、煙突一本にも破損箇所が見当らなかつた。」

特別公開

「歌人たちの競演」

宗像大社所蔵五組の
三十六歌仙図扁額

宗像大社神宝館では、現在、桃山時代から江戸時代にかけて、宗像大社へ奉納された三十六歌仙図扁額を特別公開しております。年に一度、期間限定の貴重な特別公開。和歌の趣、大和絵の美が融合する雅の世界をどうぞ堪能下さい。

会期 平成25年7月20日(土) ~ 8月25日(日)

会場 宗像大社神宝館 3階展示室

拝観料 ●大人 500円

●大学・高校生 300円

●中・小学生 200円

●15名以上は1名に付 100円引

※3階展示室の展示替え作業のため、左記日程は1階・2階展示室のみの拝観となります。どうかご了承下さい。

平成25年8月26日(月)、27日(火)



小野小町 延宝八年 黒田光之奉納

第三四回

宗像大社歌会詠草

大西晶子選 毎月25日メロ



福津市

若木台

山崎

公俊

神々の過去知るさまに磐座の黒岩へ寄る大鴉二羽

威厳のある大鴉。「過去知るさまに」に重ね(悠然と)などとあると姿が見える。

うきは市

浮羽町

向

則正

日もすがら家に籠りて古文書を悩みながらも読み解いてるし
古文書を読み解く難しさと楽しさ。結句をへ読み解きてゆく」とすると臨場感が出る。

北九州市

八幡西区

豊田

光子

終戦がわれの原点「疲れました」本音をぼつりわれの繰り言
終戦から長く頑張ってきた作者。三句以下(繰り言に)「疲れました」と本音が洩れる」としては。

宗像市

日の里

石松

弘次

農は出来ぬさせぬと交わし嫁がせし婿の実家の田植え始まる
複雑な人間関係を手際よく詠みこんだ一首。娘さんは田植えを楽しまれるかも。

福津市

中央

池浦千鶴子

「ちゃん」付けにて同窓会に呼び交す白髪になりしことなど忘れ
「そうそう」と相槌を打ちたい。初句・二句を(ちゃん付けで同窓会では)に。

宗像市

日の里

大和美由紀

うす紅の花描かれし金胡麻の種の袋を柳川で買ふ
言葉のイメージが華やか。二句・四句を(花の描かるる種ひと袋)とする」とリズムが締まる。

福津市

星ヶ丘

佐々木和彦

いくたびもいい日旅立ちの曲を聞く新幹線のなかの瞑想
車内放送のメロディに瞑想を破られる作者、うるささがっているように感じないのは曲名のせいだろう。

宗像市

田久

巻 桔梗

雲のかけ採石場の山を撫づ、いたいいたいのとんでゆかまし
雲を擬人化した歌。下の句は(痛い痛いの痛いの飛んで行けー)としたい。

福津市

若木台

野間 精一

黄の色が日ごと濃くなる枇杷の実を遊歩道を来て今朝も仰げり
枇杷を見守る作者の目が優しい。四句・結句を入れ替えても良いだろう。

宗像市

池田

森 龍子

髪うすくなりて手櫛の通りよく若葉さやさや巡りに親し
髪が薄くなったのに良い面を見る作者。結句を(親子季を)などとしても。

◆ 選者詠

心より体がさきに老いづきてもうスキップをしたがらぬ脚
ホバリング、瞬間移動のち飛翔なつくさの上の赤とんぼたち

第五九七回

俳句作品集

宗像市 日の里 石松 弘次
目に青葉朝の目覚めのさわやかに

宗像市 日の里 花田いつ枝
泉より噴き出し真水空襲日

宗像市 武丸 白土 凌一
雨降りて田植え始める六月や

宗像市 多禮 早川 祥三
睡蓮や水面の風に動かざり

編集後記

「天孫を助け奉り 天孫に祭かれよ」という御神勅を天照大神より頂く当大社において、今回、皇太子殿下の御参拝に浴したことは誠に光栄なことであります。職員として三十年振りとなるこの御参拝に関われたことを敬びと感じ、また、神職として精進せねばと感じております▼仮殿地鎮祭が七月五日に斎行され、四十年振りとなる大規模な造営事業が、いよいよ動き出しました。進捗状況等を皆様にお知らせすべく、ホームページに造営日記を作成しておりますので、御閲覧頂ければと思います▼蝉の鳴き声が耳に残り、暑さが消えない日々が続きます。田舎ゆえにこんな蝉の音が気になるのか、都会でも蝉は鳴いているのか、どうでもいいことをふと思いつながら刻々と当該のメロが迫っております▼本屋大賞を受賞した「海賊とよばれた男」や、映画化された十二月に放映される「永遠の0」などの著者である、ベストセラー作家の百田尚樹氏。自分も氏の本を愛読し、最も好きな作家のひとつでもあります。なんと、今週末に氏が宗像市を訪れ、当大社を参拝されること。お話しを伺う時間があるかどうか分かりませんが、何を聞こうか一人胸を躍らせております。チャンスがあれば突撃取材しようかと、詳細を次号にて報告出来ればと思います。早く校了して質問を考えなければ、酷暑が続いております。皆様お体には「自愛下さい。」(鈴)

発行所 宗像大社社務所・宗像会

住所 〒811-1350 五福間宗像市田島三三三

電話 (0940)621-3311 (代)

発行人 藤津幹之

編集人 大塚宗延・鈴木祥裕

制作・印刷 セネラルアサヒ

毎月1日発行 定価1年送料共 1,000円